

## 令和3年第3回議会定例会（諸般の報告）

開会に当たりまして、諸般の報告を申し上げます。

はじめに「新型コロナウイルス感染症にかかる市の現状」について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の急拡大により、8月2日から8月31日まで千葉県においても緊急事態宣言が発出され、さらに、9月12日まで期間が延長されました。

急激に感染拡大している「第5波」は、感染力が強いデルタ株への置き換わりが進み、全国で感染者の増加に歯止めがかからない状況が続いております。

本市におきましても、新規感染者は、8月のひと月で253人のぼりますが、65歳以上の高齢者の9割が、2回目のワクチン接種を終え、感染者に高齢者が占める割合は減少しております。

また、市のワクチン接種の状況としましては、対象となる12歳以上の方、約5万7千200人のうち、全体の50パーセントを越える、29,041人が、2回目の接種を終えたところであり、千葉県における2回目の接種率約36パーセントに比べ、高い値となっています。

多くの皆さまのご協力により、5月に高齢者からはじまったワクチン接種は、円滑に進んでおり、今月中旬には、12歳以上の方へのクーポン券を発送し、予約を開始いたします。これで、対象となるすべての市民の皆さまが、ワクチンを接種していただけるようになります。

ワクチン不足が懸念されておりますが、国からの供給量を見極めながら、接種対象となる7割以上の方が、10月末までに2回目の接種ができるよう、取り組んでまいります。

これまでにない感染拡大にある今、感染力が強い「デルタ株」が主流となった影響により、若い世代の感染が急増しています。

本市においては、市内の小・中学校、保育園、幼稚園、学童保育、さらには高齢者等の福祉施設で感染者が認められた場合、保健所が実施するPCR検査の対象とならなかった方に対し、市独自のPCR検

査を行い、感染拡大防止に努めているところです。さらに、以前から、PCR検査の助成をおこなっておりましたが、7月からは、年齢制限をなくすなど、対象を拡大し、PCR検査の助成をおこなっております。

また、接種を希望した市内小・中学校の教職員をはじめ幼稚園・保育園、学童保育の関係者や高齢者等の福祉施設に従事する方に対し、早期にワクチン接種をおこない、感染対策を講じてまいりました。

さらに、他市において、コロナウイルスに感染した妊婦の入院先がなかったことを受け、直ちに、妊婦が優先してワクチン接種ができるよう、妊娠届を提出した妊婦の方へワクチンクーポン券を送付し、妊婦の方々の安心につながるよう取り組みを進めております。

「第5波」と言われる今回の感染拡大により、千葉県においても医療提供体制は危機的な状況にあり、自宅療養者は1万人を超えています。

本来ならば、県において自宅療養者の支援を行うところですが、保健所業務もひっ迫している状況にあり、今後、県と市で覚書を締結し、市民の命と健康を守るため、市としても、県にかわってできるだけの支援をしていきたいと考えております。

未だ先が見えない状況にありますが、不要不急の外出自粛や感染対策に対する呼びかけ、ワクチン接種の推進と、市としてすべきことを、ひとつひとつ積み重ね、一日も早く、緊急事態宣言解除へ向かうよう、取組んでまいります。

次に、「通学路の安全対策」について申し上げます。

本年6月、八街市において下校中の小学生5人がトラックにはねられ死傷するという大変痛ましい事故が発生しました。

亡くなられた児童のご冥福をお祈り申し上げますとともに、負傷された児童及び御家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

今回の事故を受け、市道道路管理者として、すぐに通学路の点検を指示し、通学路における路面標示等の修繕については、必要な措置を進めており、さらなる安全対策を講じるため、今議会に補正予算を提

案したところでございます。

また、市では毎年、通学路における危険箇所の合同点検を実施しておりますが、今回は、例年行っている危険箇所の選定条件の範囲を広げ、印西警察署、印旛土木事務所、市小中学校PTA連絡協議会、学校及び市関係課との合同による緊急一斉点検を7月27日から8月4日までの7日間で実施したところでございます。

さらに、8月20日には市内小・中学校の通学路や保育施設周辺道路における危険箇所の安全対策について、印西警察署長と面会し、「要望書」を提出しました。

市としましても、子どもたちの安全・安心を第一に、関係機関と協力・連携して、安全対策に万全を期してまいります。

次に「スクールサミット」について申し上げます。

8月26日に、市内小中学校の代表児童・生徒が文化会館「なし坊ホール」において、「SDGsなふるさと白井を」をテーマにプレゼンテーションを行う「スクールサミット」が開催されました。

これは、本市の教育振興基本計画において進めている「意欲を高める学びの創造プロジェクト」の一環によるもので、児童生徒のスピーチ能力、プレゼンテーション能力の育成を図るものとして行われたものでございます。

初の試みであるこの「スクールサミット」は、第2次教育大綱にある「多様な教育活動」の場として、次年度以降も、子どもたちの「未来を生き抜く力」を育むために、本市の教育の特色として積極的に取り組んでまいります。

最後に、白井市出身で「しろいふるさと大使」の安藤美希子選手の東京2020オリンピック銅メダル獲得について申し上げます。

7月27日に行われた東京オリンピックウェイトリフティング女子59キロ級において、安藤美希子選手が、銅メダルを獲得しました。オリンピックでのメダル獲得は、白井市初の快挙であり、本市にとりまして、大変栄誉なことでもあります。

これもひとえに、安藤選手の日々のたゆまぬ努力のたまものと、心から敬意を表します。

コロナ禍により、大会開催が1年延期され、さらに無観客での開催となる中、大会の2週間前に負傷され、そのケガを押しての出場という大変厳しい状況でのメダル獲得は、私たちに、大きな勇気と深い感動をあたえてくれました。

本来ならば、安藤選手をお招きし、報告会などの場で、市民の皆さまとともにお祝いしたいところですが、現在のコロナの状況を鑑み、先日、安藤選手に来庁していただき、お祝いをさせていただいたところです。

今後の活躍に期待するとともに、3年後に予定されているパリ・オリンピックにおいても、さらなる高みを目指し、飛躍されることを心より願っております。

市としましても、「しろいふるさと大使」で「オリンピックメダリスト」の安藤選手を引き続き、応援してまいります。